

コラム 注目されるポートフォリオを通じた評価と活用

本章第3節では、定性的な評価（例えば面接法・観察法）と定量的な評価（例えば検査法・調査法）の両者を、目的・目標に合わせて柔軟に活用しつつ、それらを含んだ多面的・多次元的な評価が必要であると指摘した。本コラムでは、多面的・多次元的な評価をするためのひとつの重要な方策として注目されるポートフォリオ（キャリア・ポートフォリオ）を通じた評価とその活用についてまとめ、あわせて、先進事例として広島県教育委員会による実践を紹介する。

まず、ポートフォリオの意味について確認することからはじめよう。語義的には「紙ばさみ式のファイリングケース」を意味するが、キャリア教育において用いられる場合には、キャリア発達を促すことにつながるさまざまな学習経験や活動の記録、特技・資格・免許などの一覧をファイリングしてまとめたものを指す。

ポートフォリオに収録される具体的な書類としては、例えば、「各学年における中核的なキャリア教育の概要記録と本人の感想」「児童会や生徒会・委員会などの活動の記録」「将来の夢に関する作文やライフプラン」の他、中等教育段階以降では、「職場体験・インターンシップなどの職場における体験的活動の記録」「ボランティア活動の記録」「職業適性検査・職業興味検査等の結果」「アルバイトなどを含んだ職歴」、「各種の免許状、合格証の写しとその一覧」などが考えられる。

次に、このようなポートフォリオの意義と役割について整理しよう。

第一に、ポートフォリオは、その作成と振り返りを通して、一人一人の児童生徒が自己理解を深める上での資料として活用できる。この重要性については、平成23年1月の中央教育審議会答申「「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」」が、次のように指摘している。

一人一人のキャリアは、その人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖によって形成される。これまで自分が何をしてきたのか、今

何をしているのかを振り返り、それを未来につなげようとする視点は、キャリア教育において不可欠である。このように、キャリア教育において自らの学習活動の過程や成果を振り返ることは重要である。例えば、キャリア教育に関する学習活動の過程・成果に関する情報を集積した学習ポートフォリオを作成し、積極的に活用していくことなどにより、子ども・若者が自らの将来の仕事や生活について考える機会を作ることが必要である。（第2章2(2)④）

また、ポートフォリオは、教職員が当該児童生徒のキャリア発達について、定性的な側面を中核として評価・把握し、個に応じた指導・支援に役立てるための重要な資料となる。また、学校種を超えてポートフォリオを引き継ぐ工夫をすることにより、上級学校は、当該生徒が入学までに蓄積してきたキャリア教育の概要とその生徒のキャリア発達のプロセスを把握することができ、体系的なキャリア教育の実践に資することが可能となる。

ここでは、小学校から高等学校まで一貫して活用するポートフォリオ「わたしのキャリアノート」を導入した広島県教育委員会の事例を紹介しよう。本事例では、各学校のキャリア教育全体計画と年間指導計画、児童生徒本人がまとめたキャリア教育に関する学習の概要（各学年1シート）を県内の共通書式とした上で、学校が独自に判断した関連資料を加えて「わたしのキャリアノート」として活用し、上級学校にも持ち上がらせている。

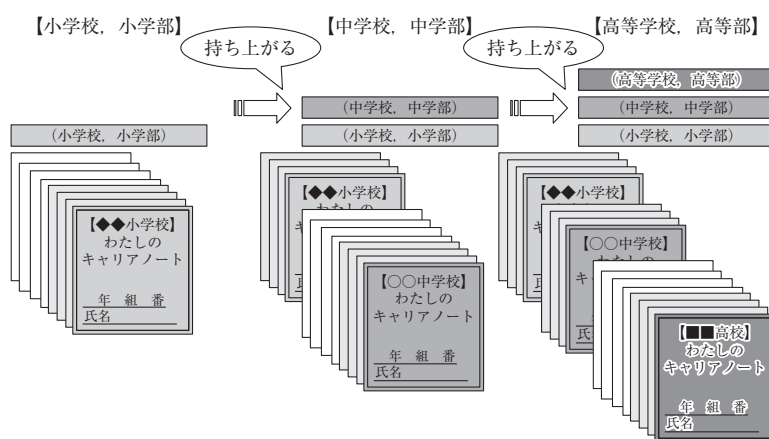


図4-8 広島県教育委員会による「わたしのキャリアノート」の活用イメージ

(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/06senior/2nd/career/02-0%20note.html>)